

令和7年度 東浅川小学校 学校経営計画報告書

八王子市立東浅川小学校
校長 福岡 大作

学校教育目標

<目指す学校像>

楽しく、前向きに自己実現に取り組む学校

<目指す児童像>

○すすんで学びます

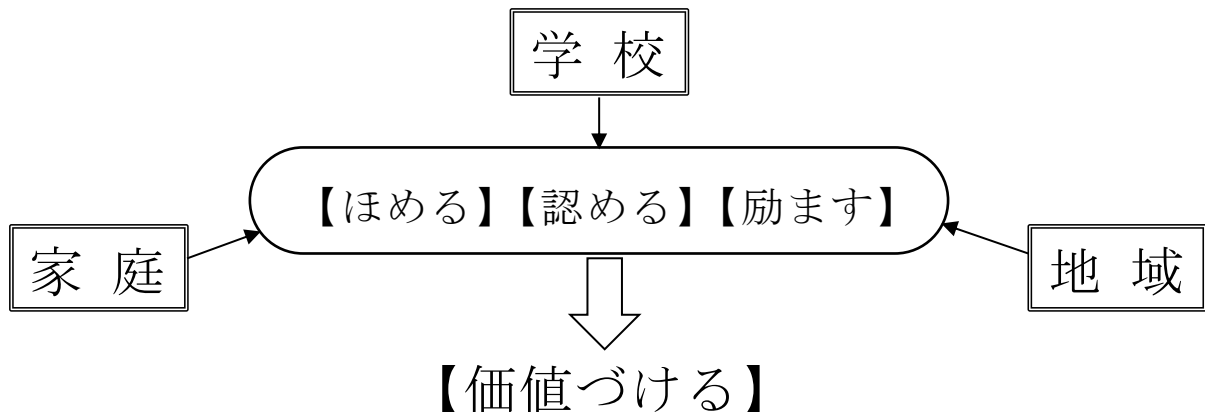
子供の個性と成長に合わせて、一人一人の意欲を引き出す「学び」を実現する。

◎心を磨きます

より高い目標に向かって、しっかりと希望と勇気を持ち、困難があっても、くじけずに努力して物事をやり抜くことができるようにするために、基本となる社会性を重視するとともに、様々な人との関わりを生かす。

○体を鍛えます

健やかな体を育成するために、自他の健康と体力に向き合い、日常的な実践に繋げる。



〔学力向上〕

【つきたい力を焦点化した授業改善】

【基礎基本の徹底】

【各調査の活用】

【地域教材や外部人材の活用】

- ・「全員が主体的に参加する授業づくり～児童同士の伝え合い、分かち合いを通して～」をテーマに、学年や教科の枠にとらわれない小グループをつくり、各個人で設定したテーマに沿った授業の相互観察を行った。発達段階に応じた話し合い活動の在り方について、研究を深めることができた。児童一人一人の考えを共有する手段として、ICT 機器の活用の仕方について、教員が学び合えた。

引き続き、個別最適な学び・協働的な学びを土台とした主体的な学びの実現を目指し、ICT 機器の効果的な活用方法を含めた指導方法を模索していく。

- ・「ぐんぐんタイム」、「習熟の時間」での取組や、「はちおうじっ子ミニマム」をはじめとする調査の実施によって、一人一人の学習状況の把握に努めることができた。また、教科担任制を情報共有に生かし、「できない、わからない」に丁寧に対応していく。
- ・関係機関の協力により、高尾山、南浅川、東浅川町の施設や店舗・企業を教材とした学習を充実させ、郷土を知る学びの質を高めることができた。
- ・近隣の教育機関から講師を招き、外国語の学習、プログラミングやタブレット機器の技能向上につなげることができた。

〔豊かで丈夫な心と体〕

【いじめ問題への適切な対応】

【不登校対策】

【基本的な生活習慣の向上】

【安全な生活】

- ・令和7年度に認知したいじめは72件（2月27日時点）あったが、すべて毎週行っている学校いじめ対策委員会で取り上げ、対応を検討し解消に向けた取組を行った。年度が替わっても継続的な対応をしっかりと行い、解消をめざす。
- ・電話や連絡アプリなどを活用したつながりを継続して行っている。校舎内の限られたスペースでは、別室指導を安定して行っていく難しさがあるが、関係機関との連携を深めながら、居場所の構築に努めていく。
- ・あいさつについて日常的な指導に加えて、「挨拶・掃除がんばる週間」や「青少対あいさつ運動」の機会をとらえて、あいさつの意義等について指導した。清掃に関する児童の自己評価は95%である一方、あいさつに関しては90%を下回っている。ただし、東浅川小のよいところとして、「あいさつ」をあげる児童も多いので、意識を高められるよう指導を工夫していく。
- ・校内での安全な過ごし方に関しては、実際のけがを見聞きすることで、意識の高まりは見られるが、引き続き、けがをしない・させないための工夫に取り組んでいく必要がある。

〔人権教育・特別支援教育等〕

【児童・教職員の人権感覚の醸成】

【特別支援教育等の充実】

- ・縦割り班活動、お相手さん活動、クラブ・委員会、各学校行事など、上級生が下級生をリードする活動を通して、年少者を大事にしようとする心情の育成に努めた。
- ・サービス事故防止研修や日々の研修、行事の企画立案を通して、ジェンダー関連や体罰防止に関する教職員の知識・理解を高めた。児童の自己肯定感を下げてしまわないよう、継続的な取組を通して、より実践力を強化する必要がある。
- ・特別支援学級の児童が、通常の学級の児童と一緒に活動する場面（交流・共同）を、計画的に行うことができた。特別支援学級と通常の学級の児童がお互いに理解度を高められるよう手立てを講じていく必要がある。
- ・5年生が、都立八王子西特別支援学校を訪問し、直接的な交流を行うことができた。また、展覧会で、支援学校の児童の作品を掲示するなどして、お互いの理解促進に努めることができた。
- ・計画的に副籍交流を行うことができた。次年度以降も、副籍を行う児童の実態に合わせて、さまざまな形での副籍交流を行っていく。

〔開かれた学校〕

【学校運営協議会との連携・協働】

【東浅川小学校保護者と教職員の会（PTA）】

【小中一貫教育】

【保幼小連携】

- ・毎月の学校運営協議会の定例会で、学校や児童の様子を報告し、学校の現状を理解してもらおうと共に、学校行事の実施計画について協議・承認を経ることで、家庭や地域の考えを意思決定に反映させることができた。
- ・学校運営協議会が外部講師をコーディネートして、冬楽校を実施して体験的な活動を行うことができた。特に、6年生は新たな試みを行い、キャリア教育を充実させられた。
- ・PTA本部役員を中心に、多くの保護者の方にボランティアとして力を貸していただき、行事を始めとする様々な教育活動を安全かつ円滑に行うことができた。できるだけ負担感の少ないかたちでご協力いただけるよう、やり方を考えていく。
- ・陵南中学校グループでの小中一貫教育をすすめ、相互の授業参観や分科会での協議を通して、9年間で育てたい児童・生徒像「自己の良さを知り、それを生かす児童」の育成に努めた。
- ・「青少対あいさつ運動」の際、陵南中学校の生徒会が本校であいさつの啓発を行った。また、はちおうじっ子サミットにおいて、それぞれの児童・生徒が相互にかかわりながら、いじめ防止に取り組むことができた。
- ・年長児が来校し、交流活動を行うことができたが、職員の交流において、入学前の情報引継ぎ以外に、より一層の充実が必要である。